

7月17日[Fri]

市内の児童生徒にお米を贈呈しました



▲多産米を手にする生徒代表の西山さん（左）、
香月市長（右）

多久市が独自に行う物価高騰対策事業として市内在住の1年生から9年生（小学1年生から中学3年生）の全児童生徒に多産米（1人あたり10kg）を支給する「多久の未来を育む『ごはんの力』支援事業」の一環で、7月17日に香月正則市長が、終業式を迎えた東原彦舎東部校を訪れ、代表の生徒にお米を贈呈しました。

児童生徒代表でお米を受け取った9年生の西山夏さんは「冷たいものだけではなく、もらったお米をしっかりと食べて夏休みを元気に過ごしたい。2種類のお米を家族で食べ比べするのが楽しみです」と笑顔で話されました。

7月17日[Fri]

東部公園を竹灯籠で灯すイベントが開催されました



▲公園全体が竹灯籠で照らされました

東多久町の東部公園にて、竹灯籠を並べて灯すイベントが初めて開催されました。イベントを主催したのは、東部公園の隣で障害者の自立を支援する就労継続支援B型事業を運営する社会福祉法人竹の里で、竹炭・竹酢液の製造販売などを行われており、今回のイベントで飾られた竹灯籠は就労されているみなさんで作成されたそうです。

竹の里多久作業所の武藤奈緒美施設長は「地域みなさんに竹の里のことを知って欲しい、地域に貢献したいという気持ちで初めて開催しました。施設の人たちも自分たちで開催できたイベントということで感謝しています」と話されました。

7月22日[Wed]

給食センター1日体験が行われました！



▲一つひとつ丁寧にハンバーグを並べました

市内義務教育学校3校の5年生54人が多久市学校給食センターで調理体験をしました。これは子どもたちに給食への理解を深めてもらおうと、一般財団法人多久市学校給食振興会が主催されているものです。

児童たちは、普段は立ち入れない調理場へ入り、職員の指導のもと調理に挑みました。専用の機械を使った野菜のカットや、大きな鍋で食材を炒めるなどの作業を体験。みんなで協力して、夏野菜カレーとフルーツミックスを作り上げました。

体験後は、会場を公民館へ移し、食育の授業や箸を使ったレクリエーションで交流しました。完成した料理を囲み「完成したカレーがとってもおいしい。食器を洗うのが楽しかった」と子どもたちは笑顔で語り合っていました。

今月の論語

十有五而志于學。
十有五にして
学に志す

出典…為政第二

私は十五歳の時に
生涯にわたり学問
することを決めた。

今月の帰宅放送は、
東原彦舎中央校9年の
上瀧花音さんです。



多久市公式
X (旧Twitter)



多久市公式
YouTube



多久市公式
Instagram



多久市公式
Facebook

